

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		地域コミュニティの再生	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	高齢者と子どもが過ごしやすい街作りを		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	4人はプリキュア		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	2. 学生	
チームメンバー数(公開)	4名		
代表者(公開)	山口ひなの		
メンバー(公開)	モア琉海杏、三枝海翔、湯山寛高		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的なチーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名 ([メンバー一覧ページ](#) を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

<チームメンバー名簿: [メンバー一覧ページ](#)>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいても結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント> 人口減少や少子高齢化が進む中、身近な教師の子育ての悩み・・・「子どもの預け先に困るんだよね」の発言に着目し、地域の子育ての課題とそれにマッチできる人材や居場所の模索を検討しました。

子育ての課題と元気な高齢者の生きがいづくりをマッチできるのではないかと仮説を立て取り組んでいます。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

『何』をするアイデアか

子育て中の保護者の支援を行うことで、子どもを持つことの不安を解消し少子化の改善を図る、希望する子どもを産み育てられる環境を地域全体で支えていく仕組みづくりを作りたいと考えています。一方で高齢化が進むがまだまだ元気な高齢者もいることから、高齢者のやりがいや社会とのつながり創出を図り、子育て世代のニーズとマッチするのか仮説を検証します。

『だれ』が『だれ』に対して

子育て世代の「子どもの預かり」が元気な高齢者の「子どもの預かり先」とマッチすることで、地域全体の子育て支援と高齢者の生きがいづくりを相乗効果的にボトムアップさせていきたいです。



↑夏休みを利用して子ども食堂でボランティアをしながら、子どもたちやその保護者さんと話をしました。

実際に子どもたちや保護者の方々と話すことで、子どもの預かりや居場所についてのイメージが具体的にわかってきました。大切なのは当事者の声！

『いつ』『どこで』

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

子育て世帯が預かりを必要とするときに実施します。場所は地域のコミュニティセンターや公民館などで実施予定ですが、現在、市内の幼稚園や保育園、小学校に通っている児童の保護者向けアンケート、シルバー人材センターで高齢者向けアンケートを実施しています。

アンケートの結果を受けてより『いつ』『どこで』実施することがよいのかを検討します。

『どのように』行うのか

今回の検討段階で、「ファミリーサポート」事業が今回の課題解決につながると検討にあがりました。対象となる児童の年齢が限定的であったり、預かる側の場所が自宅だったり、会員登録を事前に済ませていないといけなかったり、かなり制約が多いことが分かりました。

私たちが考える預かりでは元気な高齢者を想定していることや、場所は自宅ではなく公民館やコミュニティセンターのような未利用の公共施設、もう少し気軽にあずかれる仕組みづくりを解決にしているので、似ているようで似ていない事業であると考えました。

会員登録も市役所で手続きするのではなく、アプリなどのデジタルツールも活用することで、子育て世代にマッチする手法を取り入れたいと考えます。

預かる側と預けたい側のそれぞれのニーズを十分生かすことで、今ある事業の隙間を埋められるような預かり制度を組み立てられればと考えています。この課題解決は子育て支援だけでなく、高齢者向けの生きがい創出にもつながることで、子どもからお年寄りまでみんなが幸せを実感できる街へつながる事業へ発展させていきたいと考えています。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

『なぜ』

●子育て世代のニーズによるため

・子育てをすると自分時間を持ってない、大変、自由な時間がない・・・などといったマイナスのイメージが若い世代には定着しています。少しでも子育てに多少の余裕が生まれれば子育てに関するマイナスイメージの払しょくできるのではないかと考えます。

・子育てに関する相談などがしやすくなる可能性が大きくなります。核家族化が進む中で高齢者と触れ合う機会が増えるので、何気ない時間の中で子育ての困りごとなどを話すことができるようになります。

●高齢者の生きがい創出のため

・子供と過ごす時間が高齢者の生きがい創出につながる

・多少の収入減がある

・社会とのつながりにより、お達者度の向上につながる（高齢者が元気に長寿へ）

●子どもたちにとってのメリットのため

・現代のあそびだけでなく、昔のあそびなどにふれあうことができる

・地域の関わりが増える

・地域への愛着が育つ

●多世代のつながりの場の創出

・子どもから高齢者までが集える地域の場所づくり

・子どもにとっての第3の居場所づくり

以上の内容からアイデアを提案しました。

--

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 主に市の子育て支援担当課(高齢者対策担当課も共同で)

2.

3. ヒト…市の担当をプロジェクト化したチーム

モノ…**マッチング用アプリの開発(?)**

カネ…ファミリーサポート事業費(市費)

アンケート調査にもよるが、既存のファミリーサポート事業を拡大し、より利用しやすい事業形態へ変化させることでニーズにマッチする預かり事業になると考えます。

4. 時間軸を含むプロセス

これまでの取り組み	7月	課題の洗い出し 事業計画の作成
	8月	子どもの居場所の体験ボランティア(子ども食堂) 子どもや保護者からヒアリング
	9月	ニーズ調査(保護者向け依頼を市役所幼稚園保育園課へ依頼する)
	10月	ニーズ調査(高齢者向けアンケート調査を実施、シルバー人材センターへ依頼する)
	11月	調査結果の集計 資料作り
今後の予定	12月	調査結果の分析 仮説との比較や類似事業との差別化について協議
	1月	取りまとめの事業について、市役所幼稚園保育園課や子育て支援課、高齢者担当課へ提言資料を提出
	2月	実現化の可能性について市と協議 リスク管理や具体的な事業への課題の精査を協議
	3月	市長等市幹部職員への政策提言